

平成24年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名		ICFを用いた知識共有による不登校診断・治療支援システムの改善 (支援期間：平成24年度)		
大学名	所属		氏名	
富山大学	保健管理センター・教授、センター長		○斎藤 清二	
金沢大学	理工研究域電子情報学系・講師		○南保 英孝	
福井大学	大学院工学研究科・准教授 教育地域科学部・教授 教育地域科学部・准教授		○小越 康宏 三橋 美典 廣澤 愛子	
※ 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印。				
その他の機関の構成員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
	福井大学 日本学術振興会	教育地域科学部	特別研究員 博士(工学)	小越咲子
	障害者職業総合センター		研究員	武澤 友広
成果概要	<p>本研究では、金沢大学・南保らが行っている不登校児童の問診・治療データ解析とそれに関する知識、そして富山大学・斎藤ら、福井大学・小越らをもつ発達障害に関するデータと知識を融合し、各々の分野のデータや知識を、人間の身体・精神機能及び環境要因に関する共通言語として作成された分類体系であるICF/ICF-CYを用いて共有化を図ることを目的とするものである。平成24年度には、以下の成果を得た。</p> <p>① 不登校児童データのデータベース化 不登校児童データの身体や精神状態、環境要因を表す汎用のデータ形式であるXML化し、データベースからのアクセスを容易にした。また、ICF-CYコードをデータベース化することで、不登校児童データの項目からICF-CYコード、またはその逆方向の探索を容易にした。</p> <p>② 不登校児童データのICF-CYコードへのマッピング ICF-CYコードに関する専門的な知識を有する障害者職業総合センター武澤氏の監修により、①の不登校児童に関するデータの各項目とICF-CYコードの対応関係を示すリストを作成した。また、発達障害の対応事例等についてもICF-CYコードとの対応関係を示すリストを作成した。</p> <p>③ 発達障害／不登校の両研究における知識の共有化と診断・治療支援システムの評価 不登校児童データの各項目をICF-CYコードに変換し、ICF-CYコードの分類と、小児科医の不登校児童の診断結果の相関関係を調べた。結果として、ICF-CYコードと診断結果の間に相関があることが分かった。この結果より、不登校児童の症状がICF-CYコードによってある程度表現できる可能性が確認できた。以降は、より詳細な解析を進め、ICF-CYコードから不登校児童の診断結果の予測、また、発達障害のデータや知識との対応関係を調査していく。</p> <p>その他にも、関連研究の学会発表6件、学術論文3件、また、シンポジウムを1回開催した。</p>			
獲得した外部資金	<p>【本研究と関連性がある採択課題】 [1] 科研費基盤(C), 発達障害児者のための表情認知・同調スキル獲得支援システムの開発, <u>小越康宏</u>(代表), 平成24~26年度</p>			